



新年のごあいさつ



担当理事 牛尾剛士

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかな新春を迎えられたことと存じます。

今年度は、民主党政権になって初めて診療報酬の改定が行われます。政権公約で医療費増の方針を打ち出したことから一時は大幅なプラス改定が期待されましたが、ここにきて雲行きが怪しくなっています。いずれにせよ医療界にとっては厳しい状況が予想されます。

当検査センターにおいては、この難局を乗り切るために継続して品質とコストとのバランスを考慮し、内部改善に取り組んでまいります。その一環として、昨年から取組み始めたリスクマネジメント委員会の活動を充実させ、業務の標準化を推進していく予定です。同時に、このような活動を通じて職員の人材育成と安全管理の徹底をはかっていくこととしております。

会員の先生方へは、これまで迅速な検査結果報告が可能なカルテ情報ファイリングシステム Doctor's Desk Light（通称 DDLight）を展開しておりましたが、今後は後継ソフトとして最新の OS Windows7（32bit, 64bit）にも対応可能な日レセ活用ツール WOLF 導入支援を積極的に行ってまいります。WOLF は、主治医意見書や医師意見書など文書作成機能がさらに充実していますので、ご活用いただければと思います。

学術情報部門では、引き続き『インフォメーション（感染症情報/感染性胃腸炎出検状況 etc.）』発刊や医療機関向け勉強会（“出前勉強会”）の実施などを通して、会員の先生方のご要望に応えられるようさらに内容を充実してまいります。また、平成 22 年 4 月から「検査基準セット」を新たなものとして変更させていただきます。昨今の医療動向を反映させた内容に改訂しておりますので、ご活用いただきますようお願い申し上げます。

精度管理やサービスのより一層の充実により他の検査センターとの差別化を図り、会員の先生方に安心、安全をお届けできることをモットーとし、先生方に当検査センターを選択していただけるよう努力を重ねてまいります。ご意見やご要望等ありましたらご遠慮なくお申し付けください。

本年もどうかお引き立ていただきますよう、よろしくようお願い申し上げます。